もも・ネクタリン特報　①

令和５年３月１日
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市りんご･もも部会

本年の生育は、平年に比べてやや早まる見込みです。ただし、今後の気象によっては前後する場合もあるため、園地内をよく確認して薬剤散布の準備は早めに行って下さい。
第１回目の防除に向けて、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等を進めて下さい。

裏面には凍害対策、苗木の植え付け、摘蕾など記載

（参考：過去４カ年の発芽日、平岡地区）

白　鳳	平年	R5（予想）	R4	R3	R2	R1
発芽日	3/30	3/27 頃	4／4	3／25	3/22	3/31

【休眠期（発芽前）の散布】＊もも・ネクタリン共通

◎昨年、**縮葉病**の発生が多かった園地や、**カイガラムシ類**の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、縮葉病は薬剤散布での死角となる部分（園地外周、樹の上部や先端）に多く発生が見られます。
薬剤散布時は、風のない穏やかな日を選び、散布ムラのないよう樹全体に十分量を散布しましょう。

散布日　　月　　日
散布量　　リットル

散布時期：発芽前(3 月下旬)

散布薬剤	水	９８リットル当り
	アプロードフロアブル	１００ml
	キンセット水和剤 80	１００ｇ
	スプレーオイル	２リットル

対象病害虫：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類

散布量：10 アール当り　300 リットル

混用順：　水　⇒　アプロードフロアブル　⇒　キンセット水和剤 80
⇒　スプレーオイル

【注意事項】（農薬使用基準）

①アプロードフロアブル：もも⇒（14 日前、3 回）　ネクタリン⇒（7 日前、2 回）

②キンセット水和剤 80　：もも⇒開花直前まで（但し収穫 60 日前、5 回）　ネクタリン⇒（開花直前、5 回）

③【代替】キンセット水和剤 80、アプロードフロアブルに代えて、石灰硫黄合剤の 10 倍でもよい。
ただし、石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールにかからないように注意する。

【せん孔細菌病・縮葉病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

①　**【せん孔細菌病対策】**：開花７日前にキンセット水和剤 80 の 1,000 倍を特別散布する。
＊枯れている枝は、見つけ次第切除する。

②　**【縮葉病対策】**：昨年発生の多かった園地では、発芽前散布を徹底する。（散布ムラの無いよう十分な量を散布する）

③　**【カイガラムシ類対策】**：発生園は被害部を金ブラシ等で削り落す作業を実施する。（又は、被害枝を切除する）

④　**【コスカシバ対策】**：発生園は被害部の樹脂を取り除き、フェニックスフロアブルの 500 倍（開花期まで、1 回）を樹幹部に散布、または、ガットサイドＳ1.5 倍液（もも 30 日前、1 回。ネクタリン使用不可）を樹幹部に塗布する。

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と３～４月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発園地では、以下の事項にご注意ください。

①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4 月下旬頃に除去する）

※薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるが、本年は生育が早まると予想され、特に凍害発生が心配されるため、稲わら等の除去を遅らせる。

②排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。（定植方法は下記参照）

③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等の導入を検討する。

【苗木の植え付けについて】

①植え穴は苗木の根の２倍の大きさで、土とユーキリン(100ｇ～)、もみがらくん炭(5～10ℓ)、エアーポイント(1/3 袋)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

※ユーキリン(20kg 入り)、もみがらくん炭(100ℓ 入り)、エアーポイント(18kg 入り)　営農資材店にて購入可能。

②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（３月下旬～４月上旬に定植する。）

③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。
太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

⑤苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。

⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部 30～50cm の高さで充実した芽の上で切り戻す。

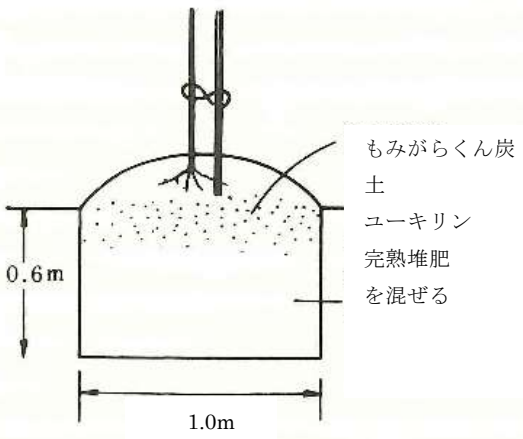

図１　基本の植え方

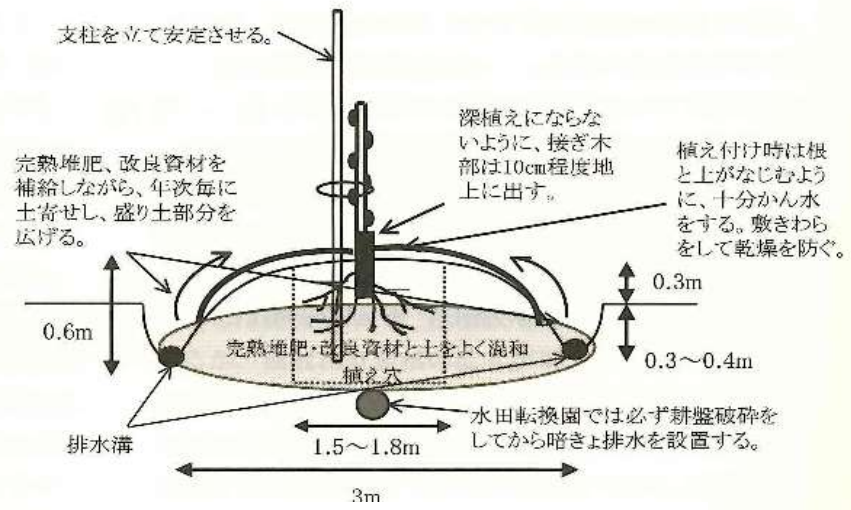

図２　　排水性が悪い土壌の場合

【摘蕾】：凍霜害の被害が心配される園地でも、高品質生産に向けて摘蕾を実施する。

時期：３月下旬～４月上中旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）
遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾の方法

①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。

②真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。
（凍霜害が心配される場合は、真上の蕾を除く）

③結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。

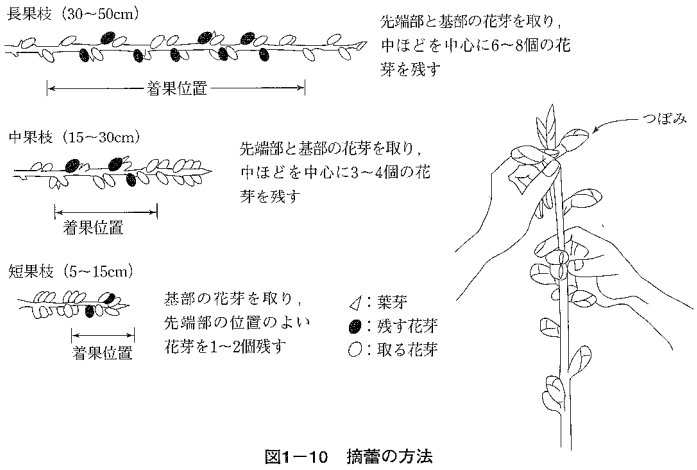

図1－10　摘蕾の方法